

広報 NASUKARASUYAMA

那須烏山

— No.77 —

2012
February

2

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

全国学力・学習調査より	2
成人式	6
駅伝競走大会	7
市議会、市政情報等	8
まちの話題	12
インフォメーション	14



あてやかな姿でほほえむ新成人(1月8日、成人式)

ち着いた学校・家庭生活

例年、全国学力・学習状況調査は、全国の公立学校の約3割を抽出し、4月に実施されています。しかし、本年度は、東日本大震災の影響により実施が見送られました。

そこで、文部科学省から本年度においては、本調査を希望する教育委員会へ問題冊子等が配布されることになりました。本市では、全小中学校で9月に調査を実施し、教育に関する検証及び改善のサイクルを継続的に支援することになりました。

例年の本調査への参加者数は、小学校でおよそ26万4千人、中学校でおよそ42万人です。本年度、本市が委託した業者で採点及び集計した児童生徒数は、小学校で約12万7千人、中学校で約11万9千人でした。例年の調査と比べ集計人数が減っていますが、小中学生とも10万人を超える集計であるため、平均正答率における全国と本市の比較には、ある程度の有意性が確保されるものと考えます。

今月号では、本調査結果の概要と傾向等を紹介します。

全国学力・学習状況調査とは

文部科学省では、全国的に子どもの学力状況を把握する「全国学力・学習状況調査」を平成19年度から実施しています。

〈調査の目的〉

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。教育に関する継続的な検証及び改善のサイクルを確立し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。

〈調査対象〉

小学6年生、中学3年生

〈調査内容〉

- 教科に関する調査(国語、算数・数学)
 - ・主として「知識」に関する調査
 - ・主として「活用」に関する調査
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

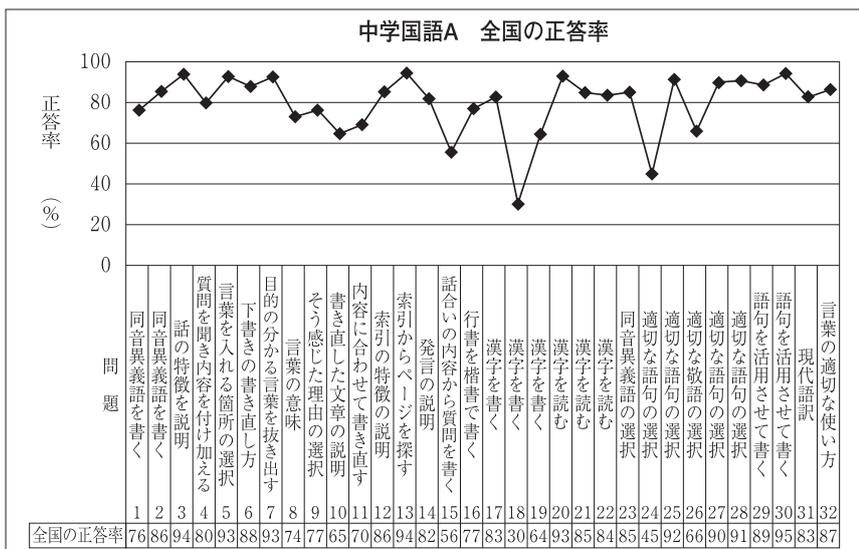


2～5ページに掲載した写真はすべてイメージです。

落中3はH20調査と 比べ伸びも

全国と比較した傾向は…

本年度の本市の平均正答率は、中学校国語で全国を上回りました。他の種別の正答率は、小中学生とも全国と同



様の傾向を示しました。また、問題別における正答率を全国と本市で比較してみると、全国において正答率の高い問題は、本市も正答率がよい傾向を示しました。一方、正答率の低い問題は、全国と同様に低い傾向がみられ、全国的な課題となっています。(上記の「中学国語A」の例を参照)また、全体的な傾向として、主に「知識」に関する問題(A問題)の正答率が、およそ70〜80%に対して、主として「活用」に関する問題(B問題)の正答率は、およそ40〜50%と低くなることがうかがえます。さらに、問題別の正答率を全国と本市で比べてみると、問題によつては全国の集計結果を上回る項目もみられましたが、下回る項目もいくつかみられ、今後の課題が明らかになりました。

なお、本調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への指導や学習状況の改善等に役立てることとありますが、本調査により把握できる学力や学習状況は一部分であります。

本調査結果を、種目別にみていくと次のように本市の実情が明らかとなり

ました。なお、全国平均正答率は、市が委託した業者が本調査を実施した全国の学校の合算集計を示しています。

学習面では…

(一)内の数字は全国の平均正答率を示しています。A問題とは主として知識を問う問題を指し、B問題とは主として知識を活用する力を問う問題のことです。

小学生(国語A・B、算数A・B)

○国語A

相手や目的に応じて自分の考えを明確に伝えるように話す問題の正答率(94.0%)は高く、漢字の読み書きは全国と同程度(読み92.0%、書き84.3%)です。一方、段落の役割を考えながら接続詞を整えて書く問題(71.3%)や構成を説明したものとして適切なものを選択する問題(82.9%)、国語辞典に最初に出てくる言葉を選択する問題(57.5%)は全国と同様に本市も低い傾向で、今後の課題と考えられます。

○国語B

司会の発言の意図を説明したものと

た業者が本調査を実施した全国の学校の合算集計を示しています。

して適切なものを選択する問題(61.0%)や伝記を比べて読み、登場人物の心情を表している叙述を多面的に捉える問題(64.3%)は全国と同程度の正答率でした。一方、司会者として発言を聞き、意見の共通点と相違点を整理して書く問題(52.9%)や書き手の違いや書き表し方の特徴に着目して、自分の考えを書く問題(35.2%)は全国と比べ低い正答率です。

○算数A

直方体の体積を求める問題(82.9%)やひし形の定義や性質についての問題(92.6%)は全国と比べ正答率が高くなっています。また、四則計算は概ね高い正答率を示しましたが、整数と小数の除数の計算(77.2%)は低く、課題がみられました。さらに、示された時計の図を基にして時間を求める問題(72.3%)にも課題がみられました。百分率の問題は全国と同様に正答率(47.9%)が低く、今後の課題となっています。

○算数B

目的に応じて表から情報を読み取る問題は全国と同程度に高い正答率(79.2%)でした。しかし、2分音符の長さ(56.8%)や正方形の作り方の図を見てどの部分が同じになっているか辺と角をそれぞれ選ぶ問題(40.6%)、比例関係が示された表を基に問題を解く過程を記述する問題(33.1%)は、全国と同様に正答率が低いことが明らかになりました。また、比例の問題にも課題がみられました。

○国語B

問題ごとの正答率ほどの項目も全国と同程度か、やや上回っていました。特に、文章の内容を正確に捉える問題(94.0%)や必要な情報を探し関連させながら読む問題(74.1%)は全国と比べ高い正答率を得ています。一方、書かれている情報を的確に読み自分の考えを適切に書く問題(60.9%)や書かれている情報を基に自分の考えを論理的に書く問題(37.1%)は全国と同様に正答率が低く、本市、全国とも今後の課題となっています。

○数学A

基本的な計算問題や数の理解の正答率は全国と同程度でした。また、投影図から立体を読み取る問題(85.6%)や錯角を利用して角度を求める問題(86.2%)の正答率が高くなっています。一方、連続する3つの自然数をnを用いた式で表す問題(71.0%)や2枚の硬貨において表が出る確率を求める問題(57.3%)は、全国と比べ低い正答率になりました。特に、平行四辺形になるための条件を選ぶ問題(31.4%)や正三角形を回転移動したときの角度を求める問題(32.5%)は全国の正答率も下がっていますが、本市はさらに正答率が低く、今後の課題となっています。

問題ごとの正答率ほどの項目も全国と同程度か、やや上回っていました。特に文脈から語句の意味を理解する問題(73.5%)や行書を楷書に書く問題(77.3%)、索引を使って必要な情報を収集する問題(94.6%)や効果的に伝えるために文章とその根拠となる図表との関係を明確にする問題(92.9%)は、全国と比べ正答率が高くなっています。しかし、文脈に即して漢字を書く問題の中に課題もみられました。

○数学B

グラフから必要な情報を読み取る問題(75.6%)や連続する3つの自然数の和が中央の自然数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く問題(74.3%)は、全国と比べ正答率が高くなっています。一方、三角形が合同になることを証明するための根拠となる事柄を説明する問題(37.3%)や範囲の意味に基づいて表から情報を読み取る問題(31.4%)は、全国の正答率も下がっていますが、本市はさらに正答率が低くなっています。問題の解決に当たり、問題文の意味を読み取り、それを数学的解釈したり数学的な表現を用いて的確に説明したり



する力が必要とされる問題に対して、全国と同様に本市の場合も正答率が低くなることも、無回答率が高くなるという傾向を示しました。

○平成20年度調査【小学校】
(現中学3年生が小学6年生時)と
平成23年度調査【中学校】
(現中学3年生)の比較

20年度調査と23年度調査の領域別正答率を全国と比べてみました。国語A問題における「書くこと」の正答率がマインス1.4ポイントからプラス0.8ポイントと伸びている一方、23年度調査の国語B問題における「言語事項」が

マイナス5・2ポイント(20年度には調査項目としてなかったと低く、中学校国語

科において「言語事項」の指導に力を入れていく必要性が明らかとなりました。

また、算数(数学A問題における「図形」の正答率は、マイナス3・8ポイントからプラス0・5ポイントと伸びている一方、B問題においては、全国と比べ正答率がマイナス2・7ポイントであるという課題もみられました。「様々な図形の定義や性質」についてさらに徹底指導する必要性が明らかとなりました。

生活面では…

生活習慣や学習環境に関する調査は、「している」及び「どちらかといえばしている」を肯定的な回答として集計しています。()内の数字は、本市の平均回答率を示しています。

○規則正しい生活

生活習慣に関しては、本市と全国とで大きな差は見られませんが、「朝食を毎日食べている」や「決まった時刻に寝る」の回答率は、全国と比べやや高くなっています。

○TVやTVゲーム等、携帯電話の利用状況

「平日3時間以上TVを見る」割合(小6約51%、中3約35%)は、全国と比べ小6で約5ポイント、中3で約3ポイント高くなっています。また、「2時間以上TVゲームをする」割合(小6約28%、中3約21%)は、全国と比べ小6で約4ポイント、中3で約2ポイント高くなっています。さらに、「1時間以上TVゲームをする」割合は、小6約55%、中3約42%に達しており、半数を超える小学生が依然として1時間以上ゲームをしている現状が浮き彫りとなりました。

さらに、携帯電話の所持率は年々上昇傾向にあり、小6で約26%、中3で約52%の児童生徒が携帯電話を持っていることが明らかになりました。携帯電話の使用の仕方、TV視聴やゲームを行う時間などについて、家族で話し合って約束事を決め、それを実践していくという家庭教育力が、今後ますます大切となってきています。

○家庭学習の状況

平日の家庭学習時間は、「1時間以上2時間未満」の割合(小6約44%、中3約38%)が最も多く、昨年度の調査結果と比べるとやや上昇傾向を示しています。しかし、「2時間以上」学習している割合は全

国と比べ、小6で約4ポイント、中3で約13ポイント低くなっており、今後さらに充実した学習時間の確保が望まれます。

家で計画を立てて学習している割合(小6約55%、中3約49%)は、全国と比べ小6で約2ポイント、中3で約4ポイント高くなっています。また、以前の調査結果と比べ小中学生とも高まっています。

○学校生活

「学校で友達に会うことを楽しいと感じている」割合(小6約97%、中3約95%)は、全国と比べて高くなっています。また、「ノートを丁寧に書いている」割合も小6で約75%、中3で約83%であり、全国と比べて高くなっています。学校側は、児童生徒の学校生活の様子を「熱意を持って勉強している(小6 100%、中3約75%)」や「授業中私語が少なく落ち着いている(小6 100%、中3 100%)」、「「礼儀正しい(小6 100%、中3約75%)」と回答しており、市内すべての学校が肯定的な回答をしています。本市の児童生徒は概ね安定した学校生活を送っているものと判断できます。

市教育委員会では、この結果を踏まえ、「確かな学力」の育成がより図られるよう、なお一層の努力をして参ります。

■学校教育課

☎0287-88-6222



二十歳の門出

華やかに成人を祝う

「成人の日」より一足早く、1月8日に風月カントリー倶楽部で平成24年成人式が挙行され、新成人291名がスーツや羽織袴、艶やかな振袖姿で出席。なつかしい小中学校の恩師や市関係者などから多くの祝福を受け二十歳の門出を祝いました。

成人者による手づくりが好評

会場は、式の始まる30分前ごろから新成人が続々と集まり、旧友を待つ姿や久しぶりの再会を喜ぶ声にあふれ、新成人となった若者の晴

れやかな笑顔で成人式にふさわしい華やいた雰囲気がありました。

成人式は、新成人が組織する実行委員会と、高校生で構成されるリーダーズクラブが協力して企画・運営を行っており、今年も13名の委員が8月から会議を重ね準備にあたりました。会議のなかで、決定した今年のテーマである「絆」。実行

委員長の鈴木みさきさんは「昨年は、東日本大震災や台風など近年で類をみない大災害に見舞われた年。そのなかで、改めて友人や仲間の大切さに気づかされました。今後、生きていくなかで多くの人と絆をつなぎ、支えあっていきたいという思いを託しました」とあいさつ。

来賓の大谷範雄市長からは「物質的に豊かな現代で、置き去りにされてきた絆。人とのつながり、思いやる心を、大災害が呼び覚ましてくれ

ました。一人ひとりの繋がりが地域を形作り、その広がりや社会を活性化していく。皆さんは、その絆を忘れず、自分の持つ力を存分に発揮し、社会の第一線で活躍してほしい」と祝辞を述べました。

歓声があがる 恩師からの祝福

式典に続いて、行われた実行委員会の手作りのアトラクションは、初めに中学校時代の恩師のビデオレターを上映しました。懐かしい恩師のメッセージに、会場は歓声や笑い声で包まれました。その後は、サイコロを振って出た目のテーマを話す「サイコロトーク」が行われ、選ばれた新成人の抱負な

どに会場からは拍手が送られました。式が終わると会場の内外で、恩師や友人との記念写真撮影や連絡先等の交換など、時間が過ぎるのを惜しみながら旧交を温めました。新成人の皆さん、おめでとうございました。今後の活躍を期待しています。



実行委員会のみなさん。



①



②



④



③

- ①久しぶりの再会に会話も弾む。
- ②実行委員長あいさつ。
- ③恩師も参加したサイコロトーク。
- ④終始、笑顔の絶えないアトラクション。

第6回市駅伝競走大会

藤田が5連覇達成

冬空の下、第6回那須烏山市駅伝競走大会が1月15日に、烏山運動公園から保健福祉センターまで10区22kmの新コースで行われ、藤田が、2位の中央北に3分7秒の差をつける圧倒的な強さで、5連覇を達成しました。昨年は、降雪のため中止となりましたが、2年振りとなる今年は16チームが参加し、沿道から多くの市民が選手に声援を送りました。

烏山運動公園での開会式では、前回優勝した藤田チームの塩田佳汰くん(下江川中3年)と永島唯登くん(同2年)が選手宣誓をしました。

午前10時、号砲を合図に16人の小学生が一斉にスタート。第1中継所では、くまだの飯塚貞光くんがトップでタスキをつなぎました。

2区で藤田の久郷純矢さんが8位から一気にトップに躍り出ると、その後も藤田が安定した走りを見せ、そのまま1位をキープし、10区の川俣翔さんがトップでゴールテープを切りました。

藤田チーム監督の塩田則男さんは、「選手たちは11月中旬から、毎日練習を積んできた。一人ひとり目標に向かって取り組んでくれたので、5連覇を達成できた。社会人も

チームを盛り上げてくれた」と喜びを語りました。
なお、中央北が前回に続いて4回連続2位、前回9位の七合が3位となりました。大会結果並びに区間賞は、左表のとおりです。



区間賞の皆さん。



優勝チーム「藤田」の皆さん。



1位でゴールテープを切る藤田の川俣選手。



烏山運動公園をスタート。

■大会結果

①藤田	1時間18分39秒
②中央北	1時間21分46秒
③七合	1時間21分51秒
④くまだ	1時間22分06秒
⑤鴻野山A	1時間22分27秒
⑥境支部	1時間23分14秒
⑦川井RC	1時間23分50秒
⑧ハヶ代	1時間24分18秒
⑨広域消防	1時間24分58秒
⑩藤田アウトレット	1時間25分47秒
⑪山あげA	1時間27分09秒
⑫山あげB	1時間33分44秒
⑬向田支部 (オープン参加)	1時間36分00秒
市役所駅伝愛好会	1時間28分51秒
北RC	1時間29分26秒
鴻野山B	1時間36分35秒

■区間賞 ()は区間距離km、チーム(敬称略)

1区(1.2) 飯塚貞光(くまだ)	4分07秒
2区(2.1) 照内修佑(鴻野山A)	6分40秒
3区(2.4) 大村健太(川井RC)	8分21秒
4区(2.5) 塩田翔平(藤田)	8分03秒
5区(2.0) 阿部峻也(北RC)	6分48秒
6区(2.6) 高野竣也(川井RC)	8分30秒
7区(2.2) 久保居俊之(広域消防)	8分22秒
8区(2.7) 柳田尚皓(中央北)	9分30秒
9区(1.5) 斎藤朋美(山あげA)	5分28秒
10区(2.8) 川俣翔(藤田)	9分41秒
萩原一真(鴻野山A)	同タイム



学校給食センター新築 工事請負契約等を可決

平成24年第1回市議会1月臨時会が1月30日に開かれ、学校給食センター新設に係る新築工事請負契約、機械設備請負契約、財産取得の3議案が原案どおり可決されました。主な内容は次のとおりです。詳しくは議会事務局（☎0287-88-7114）までお問い合わせください。

議決事項

東日本大震災で被災した学校給食センターの新築工事に関し、新築工事請負契約を荒川・佐藤・荒井特定建設工事共同企業体と締結することになりました。

同センターの機械設備請負契約を、岩原・滝田特定建設工事共同企業体と締結することになりました。

同センターの厨房機器購入契約を、日本調理器株式会社と締結することになりました。

建設業協会と広域防災協定を締結



協定書を手にする関係者。

地震、風水害などの災害発生時に、建設業者の重機などの資機材を活用し、人命救助等の初動活動が行えるようにと、那須烏山市、那珂川町、那須烏山警察署、那珂川警察署、南那須地区広域行政事務組合、栃木県建設業協会烏山支部の6者が「南那須地区広域防災の相

互協力に関する協定」を締結しました。

各団体の代表者が出席し、1月19日に南那須地区広域センターで行われた協定締結式では、栃木県建設業協会烏山支部の中山巖支部長が趣旨を説明し

「その後、協定を締結しました。大谷範雄市長は、「建設業の皆さんには、東日本大震災や台風でも不眠不休で協力いただいた。今後も安心安全なまちづくりに向け協力したい」とあいさつしました。

明るい年を願い 賀詞交歓会

市、那須烏山商工会、那須南農業協同組合では、1月11日、賀詞交歓会を鳳月カントリー倶楽部で開催し、行政関係者や団体の代表など140人が参加しました。昨年は、東日本大震災、台風15号による水害などもあったため、一日も早い復興を願い、3年ぶりに開催したものです。

主催者を代表して大谷範雄市長が、「昨年は大災害のため計画を大幅に見直し、復旧復興を優先した。今後も安心安全なまちづくりに邁進したい」とあいさつ。その後、代表者7名による鏡開きが行われました。また、烏山山あげ保存会芸能部会による日本舞踊、石の蔵ビュースタジオバンドによる演奏も行われ、会場はにぎわいました。



代表者による鏡開き。

東本願寺から義援金

目録を手渡す中根次長(中央)。



京都の東本願寺(安原晃真宗大谷派宗務総長)から、東日本大震災の義援金50万円が本市に寄付されました。震災で2名が亡くなり、県内で唯一、仮設住宅が設置されるなど、甚大な被害を被ったことから、本市への寄付が実現したもので、1月23日には、東本願寺真宗大谷派東京教務所の中根慶滋次長が来庁し、「被災者の皆さんに早く元気になってほしい」と、大谷範雄市長に目録を手渡しました。